

市町村職員自主研究グループ支援事業

職場環境改善及び
暮らしの見える化

諸塚村自主研究グループ

1. 【団体の概要】

諸塚村自主研究グループは、宮崎県市町村振興協会主催の「次世代職員の政策形成研修」に参加した諸塚村の若手職員（20～30 代）で構成しており、諸塚村の抱える課題の中で、職員の業務及び移住・定住促進に関する課題解決を目的として活動している。

2. 【事業の目的、ねらい】

今年の4月に民間の有識者で構成される「人口戦略会議」が、2050年までに若年女性人口が半数以下になる自治体は全体の4割にあたる744あり、これらの自治体はその後、人口が急減し、最終的に消滅する可能性があるといういわゆる「消滅可能性自治体」を発表した。本村もその中に含まれており、現状として若年女性人口の転入が少ないことが課題となっている。

本村の直近の社会動態では、転入者が少しずつ増加しているため、緩やかに社会減若しくはわずかに社会増で横ばいになっているものの、人口戦略会議が示すように、若年女性の転入が少ないままだと、このまま無策では消滅を避けられないだろう。

若年女性の転入が少ない、又は転出が多い原因として、私たちは2つの側面に着目した。それは、ここ5年間で本村の役場職員として入庁した若い人のほとんどが村外からの移住者であり、毎年3年未満、若しくは1年も経たずに退職して村外へ転出しているということである。これについては、移住する前と後の村内での暮らしや役場での仕事にギャップを感じ、それが原因で離職や転出が起きているのではないかと分析した。

そこで、私たちは移住者にとっての暮らしや職場のギャップを解消することが、移住・定住の促進と役場職員の定着率の向上につながると考え、村の暮らしと役場の仕事に関するマニュアルを作製することを研究することとした。

3. 【活動内容】

（1）先進地視察

行政の働き方改革が進んでいる大阪府四条畷市と、近年移住者が増えている本村と人口が同規模の岡山県西栗倉村への視察を行った。

四条畷市では、平成29年に東修平市長が就任して以来、毎年の市政運営方針において、「働き方改革」を重点施策と位置づけ取り組んでいる。

特に、原課単位でのコミュニケーションを活発にする取組やコロナ禍以降の職員採用でのWEB面接の導入による応募者の拡大をはじめ、職員の早期離職という課題に対しては定期的な面談とメンター制度を導入し、小さな不満や心配事をコツコツ解決するほか、異動に対する希望調査など抜本的な改革だけではなく長期的な視点を大切にする取組を多く行っている印象を受けた。

西粟倉村では、50年育ててきた森林をさらに50年育て、持続可能性な村づくりを目指す「100年の森林構想」を打ち立て、その構想の一環である仕事を持って移住してもらう「ローカルベンチャー事業」に取り組んでいる。これは、村での起業を考えている移住者を地域おこし協力隊として採用し、任期中はローカルベンチャースクールという自身の開業したい事業を実践し、研修や先輩起業家、行政などからのサポートを受けて退任後に起業を達成するという取組である。移住者が増えることに対する村民の意識や移住者への支援については、賛否両論があり、移住者を避ける人もいるが、仲介役の村民が自治会に1人はいて相談や支援をしているとのこと。挨拶がない人や地域活動に参加しない人もいるが、地域に子どもが増えたなどデメリットだけでなくメリットもあると感じているとのこと。こういった事例は本村でも十分に起こり得るため、移住者へのサポートや暮らしのルールなどの情報をきちんと伝えることが重要であると感じた。

視察風景



四條畷市



西粟倉村

(2) 暮らしのマニュアル作製

村内にある16の自治公民館(集落)の紹介、村での暮らしのルール、村の観光情報、移住者が受けられる支援等の行政情報など、移住を検討している人向けに、村のことが全てわかるようなマニュアル(パンフレット)の作製に着手した。

今年度は試験的に、七ツ山公民館をモデルに作製することとした。

(3) しごとのマニュアル作製

業務をマニュアル化し標準化することで、職員間の相違をなくし、「教える・教えてもらう」負担軽減及び属人化の抑制を目指した。

今年度は、職員採用が多く、働き方改革に力を入れている先進地視察をもとに、新規採用職員説明会に向けたパワーポイント(マニュアル)を試作した。特に、作製にあたっては、全課で使用する言葉の意味や役場内での手続きなどをマニュアルとして標準化し、繰り返し閲覧できる状態にすることに力を注いだ。



マニュアルづくり風景(カエル会議の実践)

4.【事業の成果、効果】

- ① 暮らしのマニュアルにおいては、全地区のパンフレット作製は時間的に困難であったため、特定の1地区を選定し、試験的に導入を図った。

作製にあたっては対象地区の理解と協力を得た上で作業を進めた。内容としては、地区の年間行事、特別な地域活動、必要となる出費、施設一覧などをまとめ

たもので、新たに住む人が地域のことを知ることができるのはもちろんのこと、地元民にとっても、外部に地域を紹介する際に活用できる内容に仕

暮らし



村のことが全てわかるようなマニュアルを作製

上がった。予算の都合で当初予定していたパンフレットの製本化には至らなかったが、パンフレットのレイアウトデザインは完了したため、事業化して予算を獲得できれば他の地区分も作製することとしたい。

諸塚村で生活している人にとっては当たり前のことでも、新しく諸塚村で生活を始める人にとっては住む場所だけではなく生活のスタイルも地域の特性も変わり、戸惑いを感じることも多くあることから、暮らしのマニュアルは、これからの心構えとして役立つものと期待している。

暮らしのマニュアル～セツ山編～（案）

セツ山公民館年間行事

4月	お大師さん セツ山桂神社春祭り
5月	—
6月	さのぼり（泥上げ）慰労遠足 公民館対抗バレー
7月	祇園祭 公民館一斉清掃（1日目）
8月	公民館一斉清掃（2日目） 村政座談会
9月	公民館敬老会
10月	村民スポーツ祭
11月	セツ山桂神社秋祭り 村民文化祭 火床検査・消防臨時点検
12月	稲荷さん祭（忘年会）
1月	消防出初式、ぜんげほっほ
2月	—
3月	公民館総会

組合一覧

東組実行組合	諸塚村消防団第6部について
中組実行組合	消防団第6部は、セツ山・穂白尾・八重の平・飯干の4公民館内で活動しています。団員数は10名前後と少数ですが、管内の火災等から住民の生命・財産を守りつつ、団員で旅行に行ったり和気あいあい元気づく活動しています。
西組実行組合	
井戸実行組合	
大白尾実行組合	

燃えるゴミ

プラスチックゴミ

資源ゴミ等については年間収集カレンダーにて確認

公民館内主要施設

浄覚寺
セツ山郵便局
藤家（多目的施設）
桂神社
セツ山公民館
セツ山婦人加工グループ
井戸集会所
旧セツ山小学校
橋本理容

セツ山の風景



公民館費一覧	金額
公民館費（毎月）	2,000
組合費（毎月）	500
イベント積立	1,500

備考 春・秋祭り・忘年会前に集金等あり

清掃作業等に参加できない場合の負担金

作業期間	男性世帯	女性世帯
半日	4,500	3,000
一日	9,000	6,000

※1.軽作業の場合は男女での差額なし

※2.70歳以上またはやむを得ない事情がある場合は、協議により免除する

村内清掃作業

- ・側溝及び横断溝の清掃時にスコップ・鍬などを使用
- ・公民館周辺は箒及び鉄熊手を使用
- ・刈払い機の使用が可能であれば道切時は優先して草刈り作業

セツ山祭り

- ・神事・臼太鼓（秋）を奉納する（事前練習あり）

使用可能な公営住宅 2棟 ※家賃相場16,800円～50,800円

地区の特色

村中心地から車で20分ほど、山の中腹にある本村地区と、川沿いに位置する井戸地区が主要集落で、現在は70人前後の住民が暮らしています。少ない人口ながら、困ったときはお互いに助け合いながら日々穏やかに生活し、館内お祭り・行事も全員で楽しみながら行っています。



暮らしのマニュアル

仕事

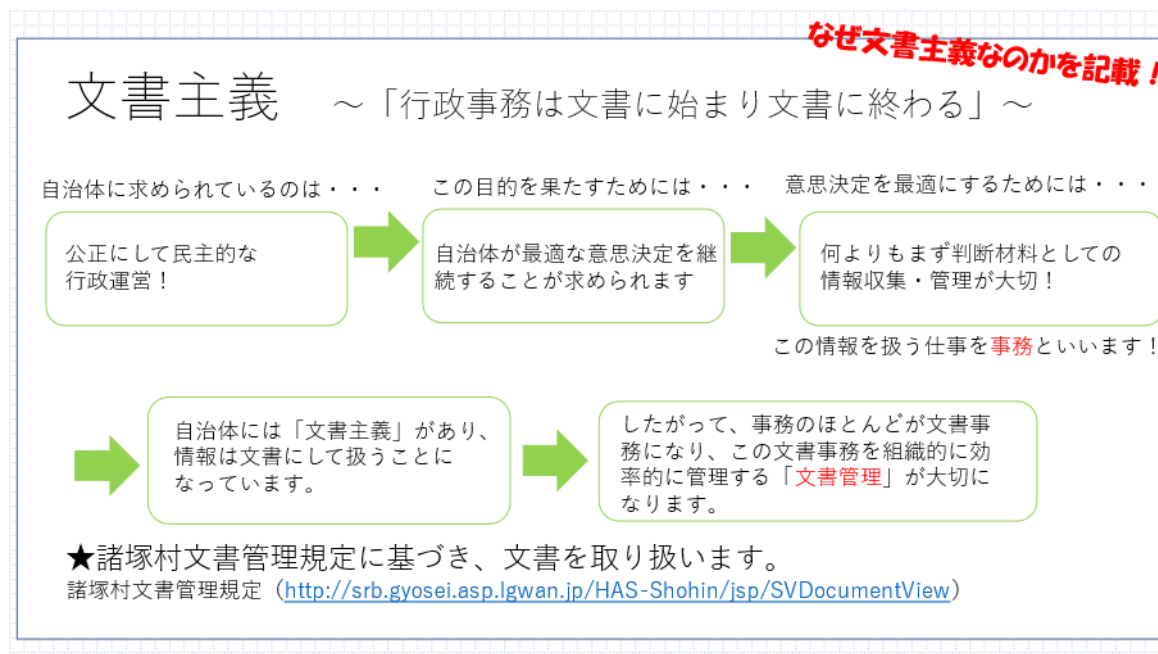
② しごとのマニュアルについては、視察先の四条畷市を参考にして、新規採用職員説明会用のパワーポイントを試作した。内容は主に、「調定調書」や「伺い・回覧の違い」など、役場全体で使用する言葉の意味や文書主義、役場内の手続きなどである。試作したパワーポイントは齟齬がないか決裁を取り、



業務をマニュアル化し標準化を目指す。

来年度以降の新規採用職員説明会での使用を検討してもらう。

このマニュアルは、新しい職員が業務の手順やルールを理解し、効率的に学ぶことに役立ち、また、業務を一貫して行うための指針となり自己解決能力を高めることにつながるものと期待している。



しごとのマニュアルの一部を抜粋

5. 【まとめ】

まず、通常業務とは別に、村のために自ら政策を立案するという機会はいまだに少なく、また、ひとつの目標に向かって、異なる所属の職員同士が協力しあって事業に取り組むことは貴重な経験であり、自治体職員として今後の業務に生かせる良い経験ができたと感じている。

今回の事業では、仕事と暮らしという2つの側面から政策立案に取り組んだが、今はどちらに対しても高い満足度が求められる時代となっていることを実感した。

視察先で、「問題解決に近道はない。」というアドバイスを受けたが、革新的なアイデアだけではなく、小さなことでも積み重ねることで問題解決につながることを感じた。

今回立案した政策が、諸塚村にとって良い影響を与えることができると考えており、小さな積み重ねを大切にする精神を忘れず、通常業務においても励んでいきたいと思う。